

課程 定時制

教科	工業	科目	建築構造	単位数	2	学年	1	科	建築科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築物躯体を構成する各種構造についての概要を理解させ、日本古来の伝統的構造である木構造について、木材の性質と各部構造の細部を学習する。

2、使用教科書・副教材

・「建築構造」実教出版 ・「建築構造図集」実教出版

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・建築構造のあらまし、構造の歴史、建築の法規と基準	期末左記範囲	20
	5月	・木材の性質、製材と使用方法		
	6月	・木材の接合、継手と仕口の種類と方法、接合の留意点		
二学期	7月	・各部の構造（軸組、小屋組）	中間左記範囲	30
	8月	・各部の構造（床組、階段）		
	9月	・仕上げに要求される性能、内外装の構造概要		
	10月	・開口部の構成、開口部の詳細、建築金物		
	11月	・外部仕上げ（屋根の種類と屋根葺き材料）	期末左記範囲	
三学期	12月	・外部仕上げ（外壁の種類と詳細）	期末左記範囲	20
	1月	・内部仕上げ（各部内装仕上げの下地の構造）		
	2月	・内部仕上げ（床の間、押入、縁側）		
	3月	・ツーバイフォー構造の概要		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTR・現場見学を併用して理解させる。同時に耐震性能を向上させる技法を理解させる。

成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	工業技術基礎	単位数	2	学年	1	科	建築科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

工業（建築）に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、工業（建築）技術への興味・関心を高める。

2、使用教科書・副教材

・「工業技術基礎」実教出版 ・自作テキスト

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・製図用具の使い方、投影法、製図規約	考查なし	20
	5月	・線の練習、文字の練習、土台マワリ詳細図		
	6月	・軒先マワリ詳細図、平家建専用住宅設計図（配置図、平面図）		
二学期	7月	・平家建専用住宅設計図（配置図、平面図）	考查なし	30
	8月	・関数電卓の使い方 ・関数の基礎的な知識		
	9月	・実習で使用する関数電卓の使用方の学習 ・方程式等の応用的な使い方の学習		
	10月			
	11月	・関数電卓の実践 ・計算技術検定（4級）受験		
三学期	12月	・基礎的な知識学習（木造平家建倉庫の図面製作） ・図面の基本的作成方法	考查なし	20
	1月	・木構造の基礎知識		
	2月	・木造平家建倉庫の縮尺1/20の図面製作 （平面図、断面詳細図、立面図、各伏図）		
	3月			

合計70時間

4、評価の方法

毎時間の学習内容についてレポートを作成し、提出状況・内容及び作品の完成度・作業への取り組み状況・出欠について総合的に判断し、各テーマの趣旨に即した4観点別の評価基準を作成し、総合的な評価とする。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

実習を通し、ものづくりの基礎技術や模型に興味を持たせ、図面および模型を正確に製作させる。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築計画 I	単位数	2	学年	2	科	建築科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築の発達、歴史的な変遷、現状などを理解させるとともに、建築計画に関する基礎的な知識と技術を習得させ、建築物を合理的に計画し、設計する能力と態度を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「建築計画」実教出版 ・自作テキスト

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・建築計画の概要	期末左記範囲	20
	5月	・建築の空間と造形		
	6月			
二学期	7月	・建築の移り変わり（わが国の建築）	中間左記範囲 期末左記範囲	30
	8月	・建築の移り変わり（西洋建築）		
	9月	・建築の移り変わり（近代建築）		
	10月	・建築物の内外の環境（気候、日照と日射）		
	11月	・建築物の内外の環境（採光と照明）		
三学期	12月	・建築物の内外の環境（換気と通風）	期末左記範囲	20
	1月	・建築物の内外の環境（伝熱と結露）		
	2月	・建築物の内外の環境（音響）		
	3月	・建築物の内外の環境（色彩）		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTRを併用して理解させる。
成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築構造	単位数	2	学年	2	科	建築科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

鉄筋コンクリート造及び鋼構造などの各部の名称・構成・機能及び建築材料の特性・規格・性能などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。建築物を合理的に設計・施工できる能力と態度を育て、あわせて建築物の防災と保守を学ぶ。

2、使用教科書・副教材

・「建築構造」実教出版 ・「建築構造設計」実教出版 ・「建築構造図集」実教出版

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・鉄筋コンクリート構造の特徴、構造形式	期末左記範囲	20
	5月	・鉄筋およびコンクリート		
	6月	・鉄筋コンクリート構造の基礎		
二学期	7月	・鉄筋コンクリート構造の主体構造(柱、梁)	中間左記範囲	30
	8月	・鉄筋コンクリート構造の主体構造(壁、階段)		
	9月	・鉄筋コンクリート構造の主体構造(各部の配筋)		
	10月	・鉄筋コンクリート構造の主体構造(各部の配筋)		
	11月	・鉄筋コンクリート構造の仕上げ		
三学期	12月	・壁式構造の特徴、構造形式	期末左記範囲	20
	1月	・鋼構造の特徴、構造形式		
	2月	・鋼と鋼材、鋼材の接合方法		
	3月	・鋼構造の基礎、骨組、仕上げ		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTR・現場見学を併用して理解させる。同時に耐震性能を向上させる技法を理解させる。

成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築製図Ⅱ	単位数	2	学年	2	科	建築科
----	----	----	-------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

製図に関する日本工業規格について学習し、建築科の専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させる。
配置図・平面図・立面図・断面図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「建築設計製図」実教出版 ・自作テキスト、資料

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・平家建専用住宅設計図(配置図、平面図)	考查なし	20
	5月	・平家建専用住宅設計図(配置図、平面図)		
	6月	・平家建専用住宅設計図(立面図、断面図)		
二学期	7月	・平家建専用住宅設計図(立面図、断面図)	考查なし	30
	8月	・平家建専用住宅設計図(各伏図、軸組図)		
	9月	・平家建専用住宅設計図(断面詳細図)		
	10月	・平家建専用住宅の自由設計(プランニング)		
	11月	・平家建専用住宅の自由設計(配置図、平面図)		
三学期	12月	・平家建専用住宅の自由設計(配置図、平面図)	考查なし	20
	1月	・平家建専用住宅の自由設計(立面図、断面図)		
	2月	・平家建専用住宅の自由設計(各伏図、軸組図)		
	3月	・平家建専用住宅の自由設計(各伏図、軸組図)		

合計70時間

4、評価の方法

各製図課題の提出状況、内容及び作品の完成度、授業への取り組み状況、出欠について総合的に判断し、各課題の趣旨に即した4観点別の評価基準を作成し、総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

製図の基礎を十分把握させ、建築製図に関する基本的な知識と技術を総合的に習得させる。
いろいろな建築図面を正しく読み、図面を構想し作成する能力を養えるよう配慮する。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築計画	単位数	2	学年	3	科	建築科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築の発達、歴史的な変遷、現状などを理解させるとともに、建築計画に関する基礎的な知識と技術を習得させ、建築物を合理的に計画し、設計する能力と態度を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「建築計画」実教出版 ・自作テキスト

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・建築と環境(伝統と結露・日照と日射)	期末左記範囲	20
	5月	・建築と環境(採光と照明・色彩・音響)		
	6月	・各種建築物の計画(集合住宅の計画)		
二学期	7月	・各種建築物の計画(集合住宅の計画)	中間左記範囲	30
	8月	・各種建築物の計画(集合住宅・事務所の計画)		
	9月	・各種建築物の計画(事務所・小学校の計画)		
	10月	・各種建築物の計画(小学校の計画)		
	11月	・都市と地域の計画(都市と都市計画・制度と都市計画法)	期末左記範囲	
三学期	12月	・都市と地域の計画(建築と地域の計画・まちづくり)	期末左記範囲	20
	1月	・建築設備の計画(概要、給排水・衛生設備)		
	2月	・建築設備の計画(空調・換気設備)		
	3月	・建築設備の計画(電気・防災・搬送設備)		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTRを併用して理解させる。
成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築構造設計 I	単位数	2	学年	3	科	建築科
----	----	----	----------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築構造設計に関する基礎的な知識と技術を習得させ、構造物を合理的に設計する能力と態度を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「建築構造設計」実教出版 ・「基本式の理解と活用 建築構造設計」実教出版

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・建築構造設計の基本と概要	期末左記範囲	20
	5月	・力、力のモーメント、力の合成と分解（図式解法、算式解法）		
	6月	↓		
二学期	7月	・力の釣合い（1点に作用する場合、作用点の違う場合）	中間左記範囲 期末左記範囲	30
	8月	・構造物の種類、支点と接点、荷重の種類と表示		
	9月	・反力の求め方、構造物の安定と静定		
	10月	↓		
	11月	・単純梁（集中荷重、等分布荷重、等変分布荷重）		
三学期	12月	↓	期末左記範囲	20
	1月	↓		
	2月	・片持梁（集中荷重、等分布荷重、等変分布荷重）		
	3月	↓		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTR・模型を併用して理解させる。同時に耐震性能を向上させる技法を理解させる。成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築施工	単位数	2	学年	3	科	建築科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築施工の歴史を学び、基礎的な知識と技術を身につけることにより、実際に活用できる能力を養う。
また、建築精算に携わる人々について学習し、卒業後の進路選択に役立てる。
既に「建築構造」で学習した各種構造をもとに、工事实施の概要を学習する。

2、使用教科書・副教材

・「建築施工」実教出版 ・「建築構造」実教出版 ・「ネットワークによる工程の計画と管理」日本建築学会

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	・建築施工のあらまし、建築施工の意義	期末左記範囲	20
	5月	・建築施工に携わる人々、建築施工の流れ		
	6月	・工事の準備、地盤と敷地の調査と確認		
二 学 期	7月	・解体工事(内容、解体工法、流れ、建築廃棄物)	中間左記範囲	30
	8月	・仮設工事(工事測量、仮設建設物)		
	9月	・仮設工事(各種設備、足場)		
	10月	・土工事		
	11月	・地業工事		
三 学 期	12月	・躯体工事(木構造)	期末左記範囲	20
	1月	・躯体工事(鉄筋コンクリート工事)		
	2月	・躯体工事(鋼構造)		
	3月	・躯体工事(設備工事、仕上げ工事)		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTRを併用して理解させる。
成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築実習Ⅱ	単位数	2	学年	3	科	建築科
----	----	----	-------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

工業（建築）に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、工業（建築）技術への興味・関心を高める。

2、使用教科書・副教材

・「建築構造」実教出版 ・自作テキスト

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	木造平屋建て専用住宅の軸組模型制作 ↓ 基礎部 制作	考查なし	20
	5月			
	6月			
二学期	7月	土台・柱 制作 ↓ 床束・根太 制作 ↓ 梁・屋根束 制作 ↓ 屋根 制作	考查なし	30
	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
三学期	12月	木造平屋建て専用住宅の自由設計 平面プラン作り	考查なし	20
	1月			
	2月			
	3月			

合計70時間

4、評価の方法

毎時間の学習内容についてレポートを作成し、提出状況・内容及び作品の完成度・作業への取り組み状況・出欠について総合的に判断し、各テーマの趣旨に即した4観点別の評価基準を作成し、総合的な評価とする。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

建築の基礎知識を生かして、実習を通し自由設計に興味を持たせ、図面を正確に完成させる。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築製図Ⅲ	単位数	2	学年	3	科	建築科
----	----	----	-------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

製図に関する日本工業規格および建築科の専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、製作図、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「建築設計製図」実教出版 ・自作テキスト、資料

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・2階建専用住宅設計図（配置図 兼 1階平面図）	考查なし	20
	5月	・2階建専用住宅設計図（配置図 兼 1階平面図）		
	6月	・2階建専用住宅設計図（配置図 兼 1階平面図）		
二学期	7月	・2階建専用住宅設計図（2階平面図 兼 1階屋根伏図）	考查なし	30
	8月	・2階建専用住宅設計図（2階平面図 兼 1階屋根伏図）		
	9月	・2階建専用住宅設計図（2階平面図 兼 1階屋根伏図）		
	10月	・2階建専用住宅設計図（断面詳細図）		
	11月	・2階建専用住宅設計図（断面詳細図）		
三学期	12月	・2階建専用住宅設計図（立面図、断面図）	考查なし	20
	1月	・2階建専用住宅設計図（立面図、断面図）		
	2月	・2階建専用住宅設計図（各伏図、軸組図）		
	3月	・2階建専用住宅設計図（各伏図、軸組図）		

合計70時間

4、評価の方法

各製図課題の提出状況、内容及び作品の完成度、授業への取り組み状況、出欠について総合的に判断し、各課題の趣旨に即した4観点別の評価基準を作成し、総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

製図の基礎を十分把握させ、建築製図に関する基本的な知識と技術を総合的に習得させる。
 いろいろな建築図面を正しく読み、図面を構想し作成する能力を養えるよう配慮する。

課程 定時制

教科	工業	科目	情報技術基礎	単位数	2	学年	3	科	建築科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「情報技術基礎」実教出版

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・アプリケーションソフトウェアの利用	考查なし	20
	5月	文書処理 (Word)		
	6月			
二学期	7月	表計算 (Excel)	考查なし	30
	8月	↓		
	9月			
	10月	↓		
	11月			
三学期	12月	↓	考查なし	20
	1月	・画像処理の利用		
	2月	写真の取り込み プレゼンテーション		
	3月	↓		

合計70時間

4、評価の方法

実技については操作方法の習得度・課題の完成度・取り組み状況などを含めて総合的に判断し、各テーマの趣旨に即した4観点別の評価基準を作成し、総合的な評価とする。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

コンピュータの歴史と特徴、コンピュータの利用形態、情報化の進展と産業社会、情報化の進展が産業社会や日常生活に及ぼす影響などについて理解させるとともに、ソフトウェア、プログラミング、ハードウェア、マルチメディア・制御・通信など、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。

課程 定時制

教科	工業	科目	課題研究	単位数	3	学年	4	科	建築科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築を学んだ集大成として住宅の設計に取り組む。設計したプランはCAD 図面と軸組模型で表現し、プレゼンテーションを行う。実際の作業を通して建築の基礎的な知識と技術を習得させるとともに、技術革新に対応できる能力と態度を育てる。

2、使用教科書・副教材

- ・「建築設計製図」 実教出版
- ・「新建築設計ノート」 彰国社
- ・「建築設計資料」 建築資料研究社
- ・「建築設計資料集成」 丸善

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	CAD 図面の作成	考查なし	30
	5月	↓		
	6月	↓		
二学期	7月	木造軸組模型の製作	考查なし	45
	8月	外観模型の制作		
	9月	基礎的な造形技術（木造平家建住宅の模型制作）		
	10月	・3年での自由設計で考えた木造平家建住宅の木造軸組製作（縮尺＝1／50）		
	11月	・自由設計の外観模型の制作		
三学期	12月	↓	考查なし	30
	1月	プレゼンテーション準備		
	2月	課題研究発表会		

合計105時間

4、評価の方法

学習の定着度、作業への取り組み状況、作品の完成度、出欠について評価基準を作成し、総合的な評価をする。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

実習を通し、ものづくりの基礎技術やものづくりに興味、関心を持たせる。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築構造設計Ⅱ	単位数	2	学年	4	科	建築科
----	----	----	---------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築構造設計に関する基礎的な知識と技術を習得させ、構造物を合理的に設計する能力と態度を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「建築構造設計」実教出版 ・「基本式の理解と活用 建築構造設計」実教出版

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・基本的な反力計算の復習	期末左記範囲	20
	5月	↓		
	6月	↓		
二学期	7月	・部材内の応力の求め方	中間左記範囲 期末左記範囲	30
	8月	↓		
	9月	↓		
	10月	・応力図の作り方		
	11月	↓		
三学期	12月	・鉛直、水平以外の方向からの外力に対する反力計算	期末左記範囲	20
	1月	↓		
	2月	↓		
	3月	↓		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTR・模型を併用して理解させる。同時に耐震性能を向上させる技法を理解させる。成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築施工Ⅱ	単位数	2	学年	4	科	建築科
----	----	----	-------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築施工の歴史を学び、基礎的な知識と技術を身につけることにより、実際に活用できる能力を養う。
また、建築精算に携わる人々について学習し、卒業後の進路選択に役立てる。
既に「建築構造」で学習した各種構造をもとに、工事实施の概要を学習する。

2、使用教科書・副教材

・「建築施工」実教出版 ・「建築構造」実教出版 ・「ネットワークによる工程の計画と管理」日本建築学会

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	・建築物の維持保全(あらまし、考え方)	期末左記範囲	20
	5月	・建築物の維持保全(各部の維持保全)		
	6月	・工事契約と施工管理(工事契約)		
二 学 期	7月	・工事契約と施工管理(現場組織の編成)	中間左記範囲	30
	8月	・工事契約と施工管理(施工管理)		
	9月	・工事契約と施工管理(施工管理)		
	10月	・工事契約と施工管理(ネットワーク)		
	11月	・建築工事費の算出(積算の種類と方法)		
三 学 期	12月	・建築工事費の算出(積算の種類と方法)	期末左記範囲	20
	1月	・建築工事費の算出(積算方法)		
	2月	・建築工事費の算出(積算方法)		
	3月	・建築工事費の算出(建築工事内訳書)		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTRを併用して理解させる。
成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築製図Ⅳ	単位数	2	学年	4	科	建築科
----	----	----	-------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

製図に関する日本工業規格および建築科の専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、製作図、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力を育てる。

2、使用教科書・副教材

・「建築設計製図」実教出版 ・自作テキスト、資料

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・鉄筋コンクリート造 設計製図（配置図、各階平面図）	考查なし	20
	5月	・鉄筋コンクリート造 設計製図（配置図、各階平面図）		
	6月	・鉄筋コンクリート造 設計製図（立面図・断面図）		
二学期	7月	・鉄筋コンクリート造 設計製図（立面図・断面図）	考查なし	30
	8月	・鉄筋コンクリート造 設計製図（立面図・断面図）		
	9月	・鉄筋コンクリート造 設計製図（各伏図）		
	10月	・鉄筋コンクリート造 設計製図（各伏図）		
	11月	・自由設計（木造2階建専用住宅 又は RC造専用住宅）		
三学期	12月	・自由設計（木造2階建専用住宅 又は RC造専用住宅）	考查なし	20
	1月	・自由設計（木造2階建専用住宅 又は RC造専用住宅）		
	2月	・自由設計（木造2階建専用住宅 又は RC造専用住宅）		
	3月	・自由設計（木造2階建専用住宅 又は RC造専用住宅）		

合計70時間

4、評価の方法

各製図課題の提出状況、内容及び作品の完成度、授業への取り組み状況、出欠について総合的に判断し、各課題の趣旨に即した4観点別の評価基準を作成し、総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

製図の基礎を十分把握させ、建築製図に関する基本的な知識と技術を総合的に習得させる。
 いろいろな建築図面を正しく読み、図面を構想し作成する能力を養えるよう配慮する。

課程 定時制

教科	工業	科目	建築法規	単位数	2	学年	4	科	建築科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

建築関係法規に関する基礎的な知識を習得させ、建築物の設計、施工、管理などに活用する能力と態度を育てる。
具体的な事例を通して、建築物が安全及び衛生上の必要性から多くの法規によって規制されていることについて理解させる。

2、使用教科書・副教材

・「建築法規」実教出版 ・「建築基準法令集」オーム社 ・「建築法規用教材」日本建築学会

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	・建築法規のあらまし（建築法規の起源と建築基準法の意義）	期末左記範囲	20
	5月	・法規の体系と建築基準法の構成、基本用語		
	6月	・個々の建築物にかかわる規定（一般構造、構造強度）		
二学期	7月	・個々の建築物にかかわる規定（防火と避難、建築設備）	中間左記範囲	30
	8月	・都市環境を作るための規定（都市計画法、土地利用）		
	9月	・都市環境を作るための規定（道路と敷地、密度、形態）		
	10月	・都市環境を作るための規定（良好なまちづくり）		
	11月	・手続きなどの規定（関係する機関、着工まえの手続き）		
三学期	12月	・手続きなどの規定（工事中の手続き、違反建築物に対する措置）	期末左記範囲	20
	1月	・各種の関係法規（建築士法、建設業法）		
	2月	・各種の関係法規（バリアフリー新法、耐震改修促進法）		
	3月	・その他の関係法規		

合計70時間

4、評価の方法

学習意欲・態度、年4回の定期テストの結果及び、提出物の状況等により総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

必要に応じてスライド・VTRを併用して理解させるとともに、演習問題を作成して活用する。
成績不振者に対しては、学期毎に課題・追試・補習等を課す。

課程 定時制

教科	工業	科目	実習	単位数	3	学年	4	科	建築科
----	----	----	----	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

工業（建築）に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、工業（建築）技術への興味・関心を高める。「建築構造」・「建築計画」・「設計製図」などとの有機的な関連のもとに、調査・計画・設計・監理・施工の一連の過程を理解させる。

2、使用教科書・副教材

・「建築構造」実教出版 ・「建築設計製図」実教出版 ・自作テキスト

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	基礎的な分析及び測定技術 測量技術の基礎 レベル、トランシット	考查なし	30
	5月			
	6月			
二学期	7月	レベル、トランシット測量の応用 基礎的な造形技術（木造平家建住宅の模型制作） 3年での自由設計で考えた木造平家建住宅 の外観模型（スチレンボード）製作（縮尺=1/100）	考查なし	45
	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
三学期	12月	プレゼン用図面作成 アーキトレンド使用方法と外観パースの作成	考查なし	30
	1月			
	2月			
	3月			

合計105時間

4、評価の方法

毎時間の学習内容についてレポートを作成し、提出状況・内容及び作品の完成度・作業への取り組み状況・出欠について総合的に判断し、各テーマの趣旨に即した4観点別の評価基準を作成し、総合的な評価とする。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

実習を通し、ものづくりの基礎技術や模型に興味を持たせ、図面および模型を正確に製作させる。